

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571600475		
法人名	特定非営利活動法人 七福神		
事業所名	グループホーム七福神(2ユニット共通)		
所在地	新潟県妙高市末広町1124番地		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様が、その人らしく生活することで、気持ちよく毎日を過ごせるように工夫しながら支援しています。共に活動をする中で、仲間意識が生まれ、馴染の関係が出来ることで互いに支えあうことが実現できていると感じています。

・引き続き、感染症拡大防止の為施設での活動や町内会行事等も中止や活動制限となっていました。施設内で楽しんで頂けるような行事も計画しました。七福神農園での苗の植え付け等も楽しみの一つとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街の外れの田園地帯に隣接した場所に立地する。事業所で管理している農園が敷地のすぐそばにあり、農園を通して地域とのつながりや利用者の生活への楽しみを育んでいる。開設以来地域との関わりが深く、コロナ禍を経てもなお、良好な交流を継続している。また、妙高市役所との関係においても、困難ケースを受け入れたり、逆に相談したりと、良好な関係が築かれている。

今年度より、職員不足や感染症への対応の観点から業務を見直すこととなり、食事の提供体制が自炊中心から配食サービスへと大きく変わった。そのため食事作りへの利用者の参加は行われなくなったが、お菓子作りや季節の食材の下処理に参加していただく等、違った形での食への楽しみを提供している。業務の見直しで余裕のできた時間に利用者の余暇を充実させるべく、職員はアイデアを出し合っている。

開設後17年を経過した事業所であるが、今年度ホームページを開設する等、現状維持にとどまらないサービス向上への前向きな姿勢がうかがえる。今後も、「地域の方々と一緒に、一日一日をゆったり楽しく、じよんのびしながらその人らしくおだやかな生活を送っていただける」ように職員全員が意識して実践している事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者と職員と一緒に理念を唱和して、一日を過ごしている。	フロアの見える所に理念が掲げられ、毎日職員と利用者が共に唱和している。利用者の意向や「その人らしさ」を大切にしており、日常業務の中やカンファレンスにおいて、理念に照らして自らの対応を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ禍で、利用者の参加は制限されているが、職員は地域の一員として、活動に参加している。	開設以来地域との関わりは深く、何かと関心を持ってもらっている。コロナ禍で対面による交流は減少したが、「七福神農園」を通じた交流や野菜の差入れをいただく等の付き合いは続いている。回覧板を通してタオルを寄付していただいたり、隣接の障害者事業所に収穫した野菜を差入れる等、多様な交流がみられる。夏休み期間中には事業所の敷地内が小学生や地域の方々のラジオ体操の場となっており触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・新型コロナウイルス感染症対策の為、昨年に引き続き地域の皆さま方との交流は自粛させて頂いた。そのため交流等はできなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回「運営推進会議」を開催している。施設での取り組み状況を報告したり、感染症対策やヒヤリハット等についても意見を頂くことでサービスの向上に努めている。	コロナ禍でも事業所内で定期的に会議が開催されており、家族代表や町内会長、住民代表、市担当者、理事長が参加して活発な意見交換がなされている。内服薬の配薬事故の報告をしたところ、薬のマニュアルを見直してはどうかとの助言を受け、調剤薬局による居宅療養管理指導を利用し、薬の管理をしてもらうようにしたことで事故の減少につながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とは連携を常に取り、実情や利用者の状況を伝え、助言や指導を頂いている。	困難事例や生活保護受給者の受け入れに関して、市役所から問い合わせがあり、入居に至った実績が何件もあり、協力関係が築かれている。運営推進会議の出席や、制度上の不明点や事業所で困っている課題を相談するだけにとどまらない関係性がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体的拘束廃止等に向けた取り組みについて研修会を開催し、マニュアル等の周知をしている。	身体拘束防止に関するマニュアルは職員一人一人に配布しており、4月の職員全体会議で読み合わせを行い具体的な禁止項目や同意書をもらう手順等について確認して理解を深めている。センサーマットを使用している利用者については、身体拘束廃止委員会で協議し、継続したモニタリングと評価を行いながら利用者の安全確保を優先に検討している。	身体拘束の考え方は広く、利用者の生活に抑圧感がないかの視点が大切である。センサーや鈴等の使用に頼りすぎる対応は広い意味で行動抑制につながる可能性があるため、今一度振り返る機会を持つてはどうか。「安心、安全」を理由に安易に鈴の設置等が行われないような対策と、それらの設置が常態化しないような工夫をお願いしたい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止研修会を開催し、マニュアル等で再確認するなど、周知している。	身体拘束同様、4月の職員全体会議でマニュアルの読み合わせを行っている。日常的には気になる言葉かけや対応について、都度指導が行われている。虐待の原因となりうる職員の精神面の健康に関しては、管理者が適時声かけを行う等して配慮している。	研修については自己学習にて習得するスタイルとなっている。新人職員も同様なので、虐待につながる言動がどのようなものなのか具体的に学べるような機会や工夫をお願いしたい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度について学ぶ機会が無かったので、勉強会開催や研修内容に含め実施したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結時に丁寧に内容を説明し、ご家族からも意見を頂いている。退去時にはご家族と十分な話し合いと継続的な支援を受けられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族が来所された際に現在の状況をお伝えしたり、ご意見などないか伺ったりしている。	家族の訪問時に意見を聞き取る機会があり、広報誌の発行回数に関する意見をいただいたことがあった。また、連絡ノートを通して家族から聞き取った意見や、利用者から聞き取った意見を記録に残し、すぐに対応している。エアコンの風が気になるなどの利用者の声をもとに、風が直接当たらないよう風除けを設ける等の対応を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議や主任会議等で各職員からの意見を検討するようにしている。また、必要に応じて個々に面談を行い意見を反映できるように努めている。	職員不足やコロナ禍の対応から業務を見直すこととなり、その結果余裕のできた時間に利用者の余暇を充実するべく、多くのアイデアが職員から上がっている。また、職員が勤務希望や年休をとりやすいように十分な配慮が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・働きやすい環境作りに努めている。特にパート職員に対しては、勤務意欲により希望する労働時間や勤務日数の確保に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修会の資料は回覧をしている。必要に応じてコピーを取ってもらう等、自己研鑽を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・感染症拡大防止の為、他事業所との交流を行う事ができなかったが、感染の様子を見ながら交流の機会を作りたい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人が困っている事や不安な事に寄り添い、要望を傾聴する事で、安心できる関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の困っている事や不安な事に寄り添い、信頼していただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人の状況を把握しながら、必要な支援を見極め、家族の視点も参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・毎日の生活の中で出来る事をしていただき、一緒に助け合い生活していく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	・ご本人と家族の絆を大切に共に支えていく 関係を築いている。	家族に事業所内の生活が伝わるように、3ヶ月に1 回広報誌を送付するだけでなく、毎月担当職員か ら、日々の様子や行事、医療面等、詳細にわたる 近況報告が書面で行われている。入居費用の支 払いや日常生活品は、あえて家族に届けてもら うようにして、本人との面会と直接の意見聴取、状況 共有の機会としている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ感染症予防の為、直接の面会はで きないが、窓越し面会や電話で話ができるよ う工夫しながら支援に努めている。	馴染みの店を入居後も継続して利用できるように 配慮したり、同級生や近所に住んでいた人の面会 があったり、家族への電話を希望する場合には取 り次いだり、関係が途切れないよう支援に努めてい る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	・利用者同士の関係を把握し、職員も交わり ながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も街中でお会いした時は、近況をた ずねたり、困りごと等が有れば相談に応じて いる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・一人ひとりの思いを汲み取り、その人らしく 生活して頂けるように努めている。困難な事 例に関してはカンファレンスを行い検討して いる。	「その人らしく」生活できるように、日々の生活の中 で意向を聞き取るようにしている。意向の把握が困 難な場合は、本人の言動から推測したり、家族の 思いを参考にしたりして、声なき声を把握するよ うにしている。「飲み物メニュー」がフロアに設置して あり、細かな部分での意向把握にも努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	フェースシートや入所申込書等も参考にし ながら、生活歴、環境、経過等の把握等に 努めている。	入居の際、それまで関わっていた関係者や家族か ら聞き取りを行い、入居後は情報を得る都度、生活 記録等に記録し、その人の全体像を把握するよ うにしている。	アセスメントシートや支援経過に記録はな されているが、一覧で見れる集約されたも のが見当たらない。職員個人の「記憶」に 基づく支援ではなく、「記録」に基づく支 援となるよう、得た情報を整理して支援に活 用できるよう工夫をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員が連携を取り、変化があった時は、詳細に記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・プランに沿ったケアを行いながら、課題とケアのあり方について、カンファレンス時で検討したり、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は半年毎に更新され、モニタリングは3ヶ月毎、サービス実施状況の確認は日々行われている。計画の更新にあたり、カンファレンスで関係者の意見を反映させた上で、居室担当者と計画作成担当者が原案を作成し、本人・家族との話し合いの後、介護計画が交付される仕組みとなっている。生ゴミの片づけを自分の役割と認識されている方には、その気持ちが反映されるような計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や気づいた事等を、詳細に記録している。また、些細な変化についても情報を共有しながら実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者、家族の生活ニーズに対して、職員間で共有しながら柔軟に対応し、実践に活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方々や商店、行政、警察等とネットワークを築き利用者が外出した時は皆さんから見守りをさせていただいており、何かあれば連絡をもらえる体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の状況、状態を理解した上で対応や支援に努めている。家族の希望に合わせて、かかりつけ医に受診して頂いている。家族との連携を密にとり支援している。	入居時に、本人と家族に希望を聞き取り、かかりつけ医を継続するか協力医に変更するか選択できる。家族が受診する場合は、連携連絡票や日々の様子が伝わるような手紙を持参してもらっている。また、必要に応じて受診の同行も行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・状態の変化は看護師に相談し、適宜かかりつけ医に連絡して、指示をもらっている。受診の手助けも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には情報提供を行っている。退院時にはMSWや支援看護師と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に事業所の方針を説明し、家族と相談しながら支援するよう取り組んでいる。令和3年度より、地域の総合病院と重度化等を含んだ医療連携協力委託契約を結んでいる。	以前は看取りを実施した実績はあるが、現在は実施していない。入居の際、重度化した際の対応について説明を行っている。ホームの入浴設備が利用できないような身体レベルを判断基準とし、段階に応じて住み替えの提案を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時や転倒時の対応については職員会議等で研修を実施している。令和4年 AED 設置に合わせ研修を行った。	急変や事故発生時に備えてマニュアルが整備されており、台所の目に付く所に対応表が掲示されている。夜間は各ユニットに職員が配置されているだけでなく、その他に準夜勤の職員も配置されているので職員の不安感の軽減にもなっている。発生した事故やヒヤリハットについてはリスク委員会で検討し、再発防止につなげている。	意識消失、窒息、嘔吐、大出血等の日常的に起こりうる事故に対する初期対応については定期的な訓練が実施されていない。職員の入退職による入れ替わりもあるので、いつ起こってもおかしくないこれらの対応について、定期的な訓練がなされるよう取り組んでほしい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・2ヶ月に1回は火災や地震などを想定した訓練を行っている。	火災だけでなく、地震や風水害のマニュアルが整備されていると共に、災害に備えて発電機や備蓄もなされている。年2回の訓練を実施しており、令和5年8月には消防署立ち合いにて利用者も参加して避難訓練が実施された。事業所が災害時の一時避難所になっており、地域で果たす役割が大きい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	利用者本位の対応となるよう、職員の行動規範がそれぞれのマニュアルに記載されている。認知症や接遇の研修も行われており、一人ひとりの人格の尊重について学ぶ機会がある。同性介助に対応したり、入室時にノックをするなど、個人の人格を尊重した基本的対応が実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、自己決定ができるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の都合を優先せず、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人が好む衣類の着用ができるように、自己決定ができるように配慮している。外出時の身だしなみについても、アドバイス等を行いながら一緒に準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・提供の仕方を工夫したり、出来る事を見極めながら、準備や後片づけを一緒に行い、楽しく食事ができるように努めている。	業務の見直しを図り、今年度から3食とも配食サービスを利用し、食事作りに利用者が関わることはなくなった。しかし、お菓子作りや、梅漬け用にヘタをとったり、フキの皮をむいたりなど、違った形での楽しみを提供している。テーブル拭きや皿洗い、皿拭き等、利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その人に合った形態や食事量で提供している。水分摂取不足にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの声掛け、その人に合った介助に努めている。週3回義歯洗浄を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗を減らすよう声掛け、トイレ誘導を行っている。	排泄記録表を参考にして適時排泄を促したり、ソワソワする等の排泄のサインを見て適時トイレに誘導するなど、排泄の失敗がないよう配慮して支援を行っている。入居後リハビリパンツから布パンツに変更した人もいる。居室からトイレまでの距離と、歩行状態を考慮して、夜間だけ簡易トイレを部屋に設置する等、オムツに頼らない排泄が継続できるような支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・状態に応じて冷水や白湯を提供したり、毎日のラジオ体操や歩行運動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一人ひとりの希望やタイミングで、入浴頂いている。拒否に対して、同性介助や職員を交代するなど工夫しながら行っている。無理強いににならないように気を付けている。	2日おきを目安に入浴してもらえるよう声かけを行っているが、入浴を拒否される場合は、自宅で生活していた頃の入浴頻度を考慮して、無理強いない対応を行っている。「1番風呂に入りたい」、「毎日入浴したい」等の要望にも応えている。季節ごとの柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安心して休んでいただけるよう、灯りや室温等に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の服用している薬の把握に努め、服薬の支援と症状の変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりのできる事を見極め、役割を持つことで、張り合いの有る生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍においても、車窓ドライブや畑での収穫等を行い外出の機会を作っている。	イベントとしては、いもり池に妙高市のバスを借りて外出したり、近隣のダリア園に出かけたりしている。日常的には、「七福神農園」に足を運んだり、中庭で花見をしたり、近所を散歩したり、地域のゴミ集積所にゴミ捨てに行くなど、屋内にとどまらないような支援が自然な形で行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金は所持していない。必要な物が有る時は、家族に連絡し届けていただくか、こちらで購入の代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望が有れば、電話で話をする機会を作るなど、穏やかに過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 共有スペースにソファで寛げるスペースが有る。季節に合わせた掲示物や花が飾られ、廊下の壁には利用者の作品や写真が飾られている。 	ホールには季節感が感じられるよう花が飾られている。壁面の掲示物は、掲示美化委員が利用者に協力してもらいながらさりげない装飾を行っている。朝の掃除、花瓶の水替え、玄関前花壇の水遣り、洗濯物干しなど、利用者個々に役割を持ってそれらに取り組んでいる。利用者間の関係性を考慮して配席する等、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 共有の場にソファや椅子を置き、気の合う仲間と話ができるように配慮している。時には交流が苦手な利用者の居場所となっている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室には家族の写真や馴染の物を置き、居心地よく過ごせるように工夫をしている。 	使い慣れた寝具や家具、家族の写真等で、思い思いの部屋作りがなされている。掃除やシーツ等のリネン交換も、一緒にできる方には手伝ってもらっており、本人が居心地よく過ごせる居室環境の整備に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 手すりや足元灯、トイレに目印をつけ、自立した生活を送れるよう工夫している。 		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				